

様式2

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 伊東市立北中学校

校長名 木梨 晶 功

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	静岡県立伊東高等学校 生徒 474名 伊東市立北中学校 生徒 154名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピック選手の実際の話聞き、オリンピズムの意味を知ることができる。そして、自分たちの学校生活や今後の社会生活に生かせるようになる。(スポーツを通して心身の調和のとれた若者に育ち、平和な社会を創造することができる。)
5 取組内容	(1) 授業や道徳などで、オリンピックの歴史、競技種目、アスリートの努力、苦悩、生き方に関する内容を扱う。特に、生き方として、苦境からどう立ち直っていくかなど強い心について学ぶ。 (2) オリンピック選手の講演会を開催する。直接、選手の話聞くことで、より身近にその生き方を学ぶ。

<p>6 主な成果</p>	<p>(1) オリンピックの歴史、精神を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズ形式でオリンピックの歴史、オリンピズムなどを中学生にもわかりやすく説明され、多くの生徒が理解した。 <p>(2) オリピアンの思い、生き方を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー形式で、金藤選手の子ども時代、学生時代などのエピソードを聞いた。身近な話題を聞き、金藤選手に親しみを感じた生徒も多い。 ・オリンピックを目指す、意欲、動機なども丁寧に生徒に伝えていた。生徒も金藤選手の生き方と自分たちの日常生活と重ねながら、目的を再考したり、夢を意識したりすることができた。 ・一流のアスリートのお話を聞くことで、スポーツ、オリンピックに興味を抱いた生徒は多い。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>「オリンピックのゴールドメダリストのお話を、目の前で聞けるという千載一遇の好機」が本事業の最大の特色である。このような機会を提供して下さった伊東高校には心より感謝申し上げたい。その他、ビデオ、クイズなど映像などを準備し、生徒にとってはわかりやすいものになった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校、中学との合同、異校種間での行事であったため、連絡調整に配慮する必要があった。 ・会計処理では、講演会を運営するに当たり、どこまで与えられた予算で賄えるのかに気がついた。 ・高校、中学の双方とも、1.6 kmほど離れた会場であったため、天候によっては、この事業が成り立たなくなる可能性もあった。お天気が回復してよかった。 ・県立、市立の合同ということで、様々な場面で調整が難しかったのではないかと。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピックに関する書籍、DVDなどを用意し、学期に1～2回ほど、オリ・パラ学習を計画したい。</p>